

Associations between Pre-Admission Risk Scores and Two-Year Clinical Outcomes in Ischemic Stroke or Transient Ischemic Attack Patients with Non-Valvular Atrial Fibrillation

徳永, 敬介

<https://hdl.handle.net/2324/4475224>

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (医学), 論文博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

(別紙様式2)

氏名	徳永 敬介			
論文名	Associations between Pre-Admission Risk Scores and Two-Year Clinical Outcomes in Ischemic Stroke or Transient Ischemic Attack Patients with Non-Valvular Atrial Fibrillation			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	筒井 裕之
	副査	九州大学	教授	塩瀬 明
	副査	九州大学	教授	小田 義直

論文審査の結果の要旨

心房細動患者における脳梗塞の予測スコアである CHADS2 スコアと CHA2DS2-VASc スコアおよび大出血の予測スコアである HAS-BLED スコアは脳梗塞患者における臨床転帰の予測にも有用な可能性がある。しかしながら、先行研究においてこれらのスコアとの関連を検討された臨床転帰はいずれも脳梗塞の発症から3ヶ月以内のものである。本研究では非弁膜症性心房細動を有する脳梗塞または一過性脳虚血発作患者における発症前 CHADS2 スコア、CHA2DS2-VASc スコア、HAS-BLED スコアと発症2年後の臨床転帰の関連を検討した。2011年9月から2014年3月までの間にわが国の18の脳卒中センターに入院した非弁膜症性心房細動を有する発症7日以内の脳梗塞患者1,141例と一過性脳虚血発作患者51例(計1,192例:平均年齢78±10歳、女性537例)を解析した。modified Rankin Scale 3以上を機能転帰不良と定義した。発症前 CHADS2 スコア、CHA2DS2-VASc スコア、HAS-BLED スコアの上昇に従って2年後の機能転帰不良、2年以内の死亡、2年以内の虚血または出血イベントの発生率は有意に上昇していた。多変量解析においてもこれらのスコアは2年後の機能転帰不良、2年以内の死亡、2年以内の虚血または出血イベントと独立して関連していた。以上の結果から、非弁膜症性心房細動を有する脳梗塞または一過性脳虚血発作患者において発症前 CHADS2 スコア、CHA2DS2-VASc スコア、HAS-BLED スコアは2年後の機能転帰不良、2年以内の死亡、2年以内の虚血または出血イベントの予測にも有用と考えられた。

以上の成績はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったがいずれについても適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と判定した。

なお本論文は共著者31名であるが、予備調査の結果、申請者が主導的役割を果たしていることを確認した。